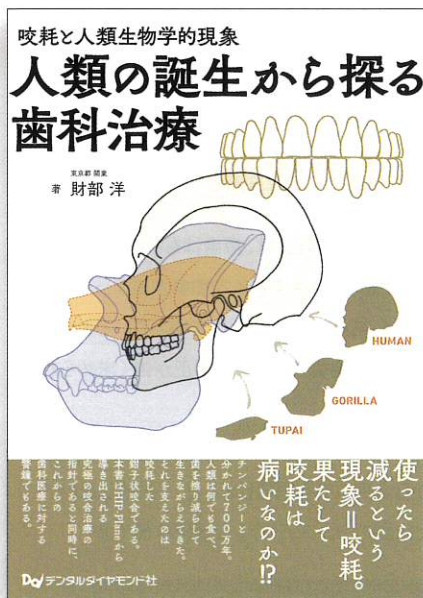


咬耗と人類生物学的現象

人類の誕生から探る 歯科治療

【著】財部 洋（東京都開業）



使ったら減るとい現象=咬耗。
果たして咬耗は病いなのか!?

700万年前の人類の祖先である初期の猿人が、気の遠くなるような時間をかけて進化していくなかで完成した咬耗した歯列をもつ鉗子状咬合は、縄文時代までごく普通の咬合様式であった。しかし、弥生時代以降から近年までに、この咬耗現象はなくなり、鉗子状咬合から缺状咬合に変化した。現在では缺状咬合が正常咬合とされている。使えば減るとい当たり前の現象である咬耗は、現代歯科学ではむしろ「病い」としての扱いである。本書では、自然咬耗咬合より発見されたHIP-Planeから導き出された咬合治療をとおして、咬耗の意義を人類生物学的に考察・検証した。今後の歯科医療に対する警鐘も含めて、ぜひ一読いただきたい。

A5判・144頁 本体4,500円+税

CONTENTS

- | | |
|--------------|----------------|
| はじめに | 07 スキャモン |
| 01 シンメトリー | 08 咬耗の否定 |
| 02 シンメトリーと歯列 | 09 近代社会の偏見 |
| 03 水平面 | 10 缺状咬合と鉗子状咬合 |
| 04 生活空間 | 11 顎姿勢 |
| 05 下顎の前進 | 12 人類の進化と咬合の変遷 |
| 06 ダイナミックス | 13 執筆を終えるにあたって |

詳しい情報は
こちら



ゼネラルデンタルカタログ
GENERAL DENTAL CATALOG

WEB版

掲載製品3,500点以上

無料 会員登録はこちら

<https://dentalcatalog.jp/temp/door/>



デンタルダイヤモンド社

検索



株式会社 デンタルダイヤモンド社

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-17 ICNビル3階
TEL. 03-6801-5810(代) / FAX. 03-6801-5009